

別記様式

議 事 録

| | |
|-------------------|---|
| 会議の名称 | 令和4年度第3回岩倉市行政評価委員会 |
| 開催日時 | 令和4年10月11日(火) 午前9時から正午まで |
| 開催場所 | 市役所7階 大会議室 |
| 出席者 (欠席委員・説明者) | 出席委員：千頭委員(委員長)、小松委員(副委員長)、川中委員、 松浦委員、村上委員、三輪委員、水野委員、吉田委員、 清水委員 欠席委員：宇佐美委員 施策担当課：城谷健康課専門員、中野長寿介護課長、浅野介護保険 グループ長、高橋長寿福祉グループ長、富市民窓口課長、石川福祉 課長、片桐障がい福祉グループ長 事務局：中村総務部長、秋田秘書企画課長、小出企画政策グループ 長、金森主任 |
| 会議の議題 | (1) 岩倉市行政評価委員会(総合計画進捗評価分)の進め方につ いて (2) 第5次総合計画の進捗の評価について |
| 議事録の作成方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他 |
| 記載内容の確認方法 | <input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他() |
| 会議に提出された資 料の名称 | 資料1：岩倉市行政評価制度 資料2：第5次岩倉市号総計画基本施策一覧表 資料3：令和4年度行政評価委員会進行スケジュール(総合計画進 捗評価分) 資料4：第5次岩倉市総合計画基本施策評価シート(令和3年度実 施施策) 参考：単位施策の評価基準表 |
| 公開・非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 傍聴者数 | 0人 |
| その他の事項 | 議事録作成者 金森 |

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

委員長よりあいさつ

2 議事

（1）岩倉市行政評価委員会（総合計画進捗評価分）の進め方について

【資料1、資料2、資料3、資料4】を基に事務局より説明

（2）第5次総合計画の進捗の評価について

【基本施策1・基本成果指標・単施策（1）】について施策担当課より説明

委員：全体的に市民満足度が高いような気がする。目標値も高く示されているが、他の自治体もこのぐらいの水準なのか。岩倉市だけが突出しているのか。

施策担当課：他市町村において同じ質問はないと思うが、母子保健事業については各市町村も力を入れているところであり、ある程度高い水準となっているかと思う。

委員：コロナ禍でどのように内容を変更されたのか。

施策担当課：施策の中で実施している事業ごとに工夫をしてやっている。例えば、出産後の産婦・新生児訪問指導について訪問を控えてほしいなどがあれば電話で行うなどしており、なるべく同じサービスが保てるよう努めている。

委員長：高い水準が保てられれば良いと思う。

事務局：第4次総合計画でも評価を行っており、85%ぐらいを最終の目標値としている。その際のアンケート満足度は70%~80%強ぐらいで推移していた。第5次総合計画策定時については全体的にアンケートの満足度が高めに出ている。この水準を維持できるかという点はあるが、目標はこの数値に設定したという経緯がある。

委員：「この地域で今後も子育てをしていきたいと思う人の割合」が高い水準である。理由は聞いているか。

施策担当課：聞いていない。

委員長：アンケートの中では聞いていないということである。市民と接する中で聞いている声などはあるか。

施策担当課：顔の見える支援、切れ目ない支援に努めており、〇〇さんという職員に対応してほしいなど、一定の満足度は得られていると考える。

委員：よく聞く話で、岩倉市の場合は乳幼児の時は手厚いケアがされ、その後子どもが大きくなるにつれ、他の市町村へ転出するというが、実態はどのようなか。

事務局：現在もそのような状況は続いている。持ち家を取得するところが転居を考える転機だと思うが、岩倉市において手頃で良い物件が見つからないために転出してしまおうという話はある。岩倉市だけでなく、他の市町村でも一定の生活エリアの範囲内で居住地を選択する傾向はあり、より郊外に転居していくという実態がある。

委員長：評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

委員：高い水準であることが良いと思う。このまま続けていければ良いと思う。

委員長：B評価とする。

【基本施策1・単位施策（2）】について施策担当課より説明

委員：実績値に対する分析のところ、海外から帰国できないということが記載してあるが、不可抗力の部分については評価を落とす必要はないという気もする。

施策担当課：未受診の人については全て連絡を取り、状況を把握しており、今後も把握していきたいと思う。

委員：ネグレクトなど訪問をしても会わせないというのがあるが、実態はどうか。

施策担当課：現在、会えない人はいない状況である。

委員長：0.8%未受診は人数的には何人か。

施策担当課：9人である。

委員長：帰国されたタイミングで市町村が把握できない状況もある。

委員長：評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…A評価が6名、B評価が3名

委員：受診率が低下している部分は海外から帰国できない児だけでないのであればA評価はつけがたいと思い、B評価とした。

委員長：実数は。

施策担当課：6名が未受診。4名が海外から帰国できない児である。市ではなく、医療機関で受診する児もある。

委員長：A評価とする。

【基本施策2・単位施策（1）】について施策担当課より説明

事務局：実績値が入っていない部分が多いが、令和4年度に市民アンケート、令和5年度には市民意向調査を行う予定である。ご承知おきいただきたい。

副委員長：ストレスを解消する方法は、場合によっては健康を阻害する場合もある。例えば飲酒や若い人のゲームなどである。成果指標としての扱いについては注意が必要。

委員：「ウォーキング・ジョギングなど軽い運動を定期的に行っている市民の割合」の分析に、継続して運動ができる取組が必要とあるが、令和4年度は何か取り組んでいるか。

施策担当課：集合して行うものではなく、個人でできるような目標設定を促進する、ポールウォーキングの器具を貸し出すなどを行っている。

委員：実績値が無い状態で評価をすることが難しいと感じる。肌感覚で評価できるような事業があれば教えてほしい。

施策担当課：肌感覚で良ければ、コロナ禍では主催者も事業が行いにくい、また、参加者も少なく感じている。五条川をウォーキングしている人々も以前のように友人を誘いながらという状況は見られなくなっている。

事務局：実績値が【Ⅲ】ということで、コロナ禍を外的要因と捉えているので、恐らく低下しているのではというところで評価をしている。

委員長：コロナ禍の状況については評価をどうするか、その知恵もお借りしたい。

副委員長：職員が状況を良く見ていると思うのでそれを続けていってもらいたいと思う。その職員のことを信頼して判断するしかないと思う。

委員長：こころの健康を保つという部分でコロナ禍の影響もあるかと思うが、相談などはあったか。

施策担当課：直接的な相談はあまりなかった。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が9名

委員長：C評価とする。

【基本施策2・単位施策（2）】について施策担当課より説明

委員：国民健康保険に加入されている個人事業主のがん検診について無料で受けられるなどの制度はあるか。

施策担当課：がん検診については、対象になったタイミングではあるが、全市民に費用を補助する形での案内をしている。

委員：個人事業主ががん検診を受けず、症状が出てから気づくという話があるため、尋ねた。

委員：「メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少率」の実績値に対する分析の欄が低下しており、今後の取組について記載があるが、なぜ低下しているか、なぜ低下していると推測できるかというところを深めて記載してもらえると評価がしやすい。

事務局：要因が掴みづらい部分もあるが、全体的な話としてなるべく踏み込んだ内容として記載するよう見直していきたいと思う。

委員長：分析欄は分析の詳細を記載し、課題については、課題及び今後の方向性の欄に記載するようにしてもらえればと思う。

事務局：個人事業主向けの話が出たので、追加になるが、国民健康保険の被保険者については人間ドックの助成も行っている。ご承知おきいただければと思う。

委員：「がん検診を受診している市民の割合」の目標値がR7に37.0%となっているが、低いのではないか。

施策担当課：高い目標を立てることは非常に大事だと思うが、現状値から積み上げていくところのぐらいだろうと目標を立てている。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が9名

委員長：C評価とする。

【基本施策3・単位施策（1）】について施策担当課より説明

委員長：コロナ禍によってかかりつけ医という考え方が浸透したかどうか分かるのであれば教えてもらいたい。

施策担当課：受診する際の一つの目安として、まずはかかりつけ医ということを経験してあり、肌感覚としてはかかりつけ医という考え方は少し浸透したかと思う。

委員長：そういった部分が分析に記載できると良い。

副委員長：「休日急病診療所を知っている市民の割合」の知っているというのはどういった知っているなのか。

事務局：存在を知っていてほしいということである。詳細については、調べようと思えば調べられるので、まずは知ってもらうことが第一である。自治体によって休日急病診療所として常設で開設しているのか、各クリニックの持ち回りでやっているのかという違いはある。岩倉市の場合は保健センターに隣接しており、医師に順番に来てもらう体制を取っている。数値が低ければ場所を検討するなどもあるが、まずは認知度を高めていく方を努力していきたい。

副委員長：当番医を設けるか、常設的な診療所を開くかというどちらのコストが高いのか。

事務局：常設的な診療所を開く方が施設の維持管理も含めてコストは高いかと思う。

副委員長：常設的な診療所を開く方が市民サービスとして良いかと思うが、常設的な診療所を開いていること自体がどうかという観点での評価の必要もあるかもしれない。

委員長：転入者に対し、休日急病診療所の周知はしているか。

施策担当課：転入者に渡す資料の中に市内の医療機関一覧を同封している。

委員：岩倉市に限らず、歯科医院が多く、皮膚科などの専門医が少ないというのを感じている。行政から医師会に対し、〇〇の専門医が少ないのもっと誘致をしてほしいというような要望はしているか。

施策担当課：行政から医師会に対して要望はしていない。基本的には開業される人が岩倉市で開業されるかどうかであり、なかなか誘致は難しい。

委員長：難しい問題である。産婦人科がない市町村も多々ある。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が3名、C評価が6名

委員：実績値の部分で、上がっているかもしれないと推測したため、B評価と考えた。

委員長：私も同じ考えだが、多数決的にはC評価である。C評価とし、コメントは記載しておいてほしい。

【基本施策3・単位施策（2）】について施策担当課より説明

委員：風しんの予防接種について40代以上は抗体がないということで接種の案内が自分宛てにも来たが、それは評価に含めていないということで良いか。

施策担当課：第2期であるため、子どものみである。

委員長：接種率が下がっている理由については推測できそうか。

施策担当課：未接種の人に個別に通知で接種勧奨をしており、その後、電話での勧奨も行っていたが、令和3年度は電話での勧奨ができなかった。また、コロナ禍で病院受診を控える人が多かったことなどが理由ではないかと考える。

委員長：分析に記載してもらえると良い。

委員長：予防接種に対する不信感・抵抗感についてはどう感じるか。

施策担当課：さまざまな考え方を持っている人がいるため、予防接種に対する情報提供は行うが、強制はできない。

副委員長：未接種の人に電話をしていると聞いたが、何人ぐらいにかけているのか。

施策担当課：人数としては今手持ち資料がない。なかなか繋がらず何回もかけるパターンもある。

副委員長：手厚い支援をしていると考えるが、接種をやらない考え方の人もおり、目標値を達成するために職員が時間と労力をどれぐらいかけるかは考える必要がある。

施策担当課：おっしゃるとおりである。これまでやってきたこともあり、職員の中でも勸奨をやめるか、どこまでやるかというのは模索している。

委員長：職員の負担と労力をかけたという点はコメントに記載してもらいたい。

委員：電話をかけ、どれだけ接種を受けられたかという点もあると評価がしやすい。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が4名、C評価が5名

副委員長：コロナ禍という特殊な状況下で良くやっていただいたと思い、B評価と考えた。

委員：コロナのワクチンと他の予防接種をする場合は、時間を置いて接種をしないといけないという物理的なものもあるので、B評価とした。

委員：コロナ禍以外の要因で下がっている部分もあるかと思い、C評価とした。

事務局：コロナのワクチン接種は令和3年度からなので令和2年度は違った要因もあるかと思う。

委員長：C評価とする。

【基本施策5・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課より説明

委員：「75歳以上の要介護3～5の認定率」の認定率というのは75歳以上の全人口なのか、申請者に対するものか。

施策担当課：75歳以上の全人口が母数である。

委員長：上がった方が良いのか、下がった方が良いのかという議論が総合計画の中でもあったかと思う。

事務局：下がった方が良いという考え方である。

施策担当課：仕方がない部分もある。直近で調べたところ、岩倉市の65歳以上の高齢者は全体で若干増加している。なかでも65歳～74歳は若干減っているが、それ以上が増えている状況である。認定率で前期高齢者と後期高齢者を比較すると、前期高齢者に比べ後期高齢者が約7.5倍の認定率であることから抑えきれないものでもないと感じている。

事務局：総合計画策定時にも議論は尽くしたが、これまでの推移の実績から、高い目標値として7.6%以下としたが、初年度に超えてしまった。

委員：「高齢者交流サロン補助金交付団体数」の実績値が現状から変わっていないが、R7の目標値が20団体となっており、コロナ禍が明けた場合の見込みということで良いか。

施策担当課：新規はなかったが、既存団体には運営費の補助をしている。令和4年度には2、3団体が新規で立ち上がっており、コロナ禍が明ければ新規団体も増えてくる見込みである。

委員長：一般的に高齢者はオンラインが苦手だと思うが、高齢者交流サロンのオンラインでの試行開催はどうだったか。

施策担当課：IT機器のハードルは高いが、高齢者自身もITが使えないと乗り遅れていってしまうという課題も持っており、オンラインサロンの開催に踏み切った。

委員長：高齢者向けのIT講座みたいなものはあるか。

事務局：市ではなく市民活動団体の事業であるが、令和4年度に開催する予定である。

施策担当課：長寿介護課の事業として、さくらの家では開催実績がある。

委員：オンラインでは、人と人との交流が深まらないのではないかという懸念があると聞くが、実際、直接会って話したいなどの意見があったか。

施策担当課：対面で話のできるサロンが基本であると思うが、コロナ禍でできない状況であるため、開催できる方法を模索し、オンラインサロンという形を取った。

委員長：対面だと参加できないが、オンラインだと参加できたという事例はあるか。

施策担当課：機器のみの貸し出しをしており、体験的に参加されたという事例はある。

委員長：シルバーリハビリ体操指導士の活動は講座を開催して指導を行うのか。

施策担当課：講座を開催するケースと地域に出向いて指導をするケースとある。

委員長：活動実績のデータはあるか。細かいものでなくても良いが。もしあれば、取り組み内容及び成果に記載してもらえると良いと思う。

施策担当課：指導士会の定例会が毎月開催されている。地区の交流会などに参加され、令和3年度は31回実施し、指導士数は延べ189人、参加者511人だった。

委員：「介護保険サービスなどの高齢者福祉に満足している市民の割合」の割合については、本人の回答か、家族がどう思っているかの回答かで捉え方が変わってくるかと思うが、どう集計しているか。

事務局：誰が回答したかは把握していない。対象者は65歳以上としており、回答者の属性を聞いているため、そこをクロス集計して母数を出してはいるが、全体的な割合である。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

副委員長：サービスの実績と目標が、施策がめざす将来の姿にどう近づいていっているのかを踏み込んで検証してもらえると良い。

委員長：B評価とする。

【基本施策5・単位施策(2)】について施策担当課より説明

副委員長：地域包括支援センター相談件数について、どんな内容の相談があるのか、内容を教えてもらいたい。

施策担当課：地域包括支援センターは、高齢者のよろず相談所という面があり、要介護認定についての相談を中心に、消費生活に関する相談、コロナ禍における介護サービス事業所への入所相談などがあつた。

委員長：特定の分野の相談が多くなつているというような傾向はあるのか。

施策担当課：そういった傾向はないと思われる。

委員：ヤングケアラーという言葉がよく聞かれるが、そういった人への対策は行つているのか。

施策担当課：難しい高齢者の問題を困難ケースと呼んでいるが、長寿介護課のみではなく関係課と連携して対応しているところである。

委員：「地域包括支援センター相談件数」の目標値についてR7が1,900件、R12が2,000件と上がつているが、上がつているのが良いのか、下がつているのが良いのかよく分からないところである。どう設定したのか。

施策担当課：相談件数については、相談のニーズは一定あると考えて設定した。出張相談がコロナ禍でできないこともあり実績値は低くなつている。

委員長：困つているという内容の相談だけでなく、問い合わせなど地域包括支援センターの利用に繋がる相談もあるかと思う。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

委員長：B評価とする。

【基本施策5・単位施策(3)】について施策担当課より説明

副委員長：「認知症サポーター養成講座受講者数」の実績値が累計数となつているが、実数はどうか。同じ人が受講している場合もあるかと思うが。

施策担当課：把握はしていない。在勤の方も含めており、相当数はある。

副委員長：熱心な人だと何回も何回も受けている人もおり、重複している人もいないかと思う。そこは整理して評価することも考えないといけないかもしれない。

委員長：アンケートなどで何回目の受講かというのは集計を取つているか。

施策担当課：取つていない。

委員長：可能であればアンケートに入れてもらえると振り返りができるかもしれない。

事務局：基本的な前提としては新規受講者である。市の職員は制度ができたときに全員受講している。市の新規採用職員も採用後すぐに受講をしていること、また、学校での生徒の受講者数もあり多いのではないかと思う。

副委員長：講座の開催回数とすると多いということか。

事務局：相当数行つている。

委員長：取組内容及び成果に介護人材の確保・定着支援で新成人のつどいでチラシを配付したとあるが、現場では日本国籍の人のみでは賄えない状況があるかと思う。市として、外国籍の人の採用などの幅広い対策は考へているか。

施策担当課：民間企業の採用の話なので、こういった支援ができるかは苦慮しているところ。アンケートを取って、どんな支援が必要か、どんな問題を抱えているかを把握することができたので、それに基づいてどんなことができるのか検討していきたいと考えている。外国籍の人に関する介護人材の確保・定着支援に限ればまだ特に検討はしていない。

委員長：技能実習で入国された外国籍の人については、ある程度研修は受けているが、実際は日本語が上手く話せない人が多い実態があり、行政が初期日本語教室などの支援を行っていると思うが、それを介護人材の確保まで繋げられる可能性はあるかもしれない。長寿介護課の業務に限ったことではないが。

委員長：後見制度に関しては、トラブルで裁判になるという可能性があるかもしれないが、実際はどうか。

施策担当課：耳には入っていないが、潜在的にはあるかもしれない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名

委員長：B評価とする。

【基本施策4・基本成果指標・単位施策（1）】について施策担当課より説明

委員：「ひとり暮らしや心身に障がいがある状態になった時の相談相手や助け合ったりする友人・知人がいる市民の割合」の基本成果指標には家族は入らないのか。

事務局：基本的には親族も含めて質問はしている。ひとりになった時に頼れる人がいるかという意味合いである。近くに子どもがいる人などもここで答えてもらっている。

委員長：ひとり暮らしになった時とあるので、今は配偶者がいるが、その人がもし亡くなった時に誰かいるのかという感じで踏み込んで答えてくれているのか、今の状況を答えているのかはばらつきがあるかもしれない。いずれにしても半分の割合しかいないということである。

委員：「市民同士の助け合いによる地域福祉活動に満足している市民の割合」の現状値が81%となっているが、回答者の居住している地域毎の集計はあるか。

事務局：アンケートは町名と小学校区を記載してもらっている。小学校区単位での分析はしている。町名単位では分析ができていない。

委員：地域での差は出てくると思うので、それに合わせた施策を検討してもらえれば思う。

委員長：調査結果の報告書は市ホームページに載っていると思うのでまた見てもらえたらと思う。

委員：福祉実践教室は全小中学校が対象か。全小中学校が対象であれば、割合の方が良いかと思う。子どもの人数が減っているため、人数では評価できなくなるかもしれない。

施策担当課：対象は全小中学校である。生徒・児童数については減少しているところと増大しているところがあり、これから恒久的に増やしていくという目標値の設定については考える必要がある。全校生徒ではなく、対象とする学年については学校の方で決めてもらっているところである。

委員長：小学校であれば、大体は4年生か5年生である。

委員：地域福祉計画でも成果指標については掲載されているかと思うが、目指していく方向性などは社会福祉協議会と共有されているか。

施策担当課：目標値の設定とめざす将来の姿についても社会福祉協議会と共有しており、連携して進めている。

委員：取組内容及び成果の部分で⑤に参照とあるがどこを参照すれば良いか。

事務局：資料4の基本施策28 市民協働・地域コミュニティの単位施策（2）地域コミュニティの強化の②地域コミュニティ活動の支援の施策を参照としている。先に出てくるものではなく、より関係性の強いものについて主な記載をし、それ以外について再掲としている。評価というところで行くと、個別施策の体系で行くと単位施策の評価しかしていないのでどうかという部分はあるが、重複している内容というところを議論し、主な記載の方で評価をするということで庁内評価は行った。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…C評価が9名（副委員長は委員長へ託け）

委員長：C評価とする。地域活動や地域福祉への関心が低いことや地域活動への参加者が少ないことが課題であると記載されているが、重要な課題だと思うので取り組んでもらいたい。

【基本施策4・単位施策（2）】について施策担当課より説明

委員長：個別避難支援計画の作成者を増やす新たな取り組みというのはどのようなものを想定されているか。

施策担当課：他の先進自治体の事例を研究していると、高齢者のケアマネージャーに作成の支援をしてもらうことというのが一つある。そういったことも含めて岩倉市として何ができるかを研究して取り組みを考えていきたい。

委員長：答えていただいた具体的な内容を今後の方向性に記載してもらえるとよいと思う。

委員長：ゲートキーパー研修参加者数は累計か。

施策担当課：過去からの累計である。

委員長：累計と記載した方が良い。

委員：「個別施策③災害時要配慮者の支援体制づくり」の取組内容及び成果で避難行動要支援者名簿を作成したとあり、課題及び今後の方向性に個人情報提供同意者や個別避難支援計画の作成済者が増えていないとある。どのような方法で増やしていくことを考えているか。

施策担当課：名簿は個人情報の提供に同意を得られた人で作成をしている。地域にこういった人がいるということを地域に知ってもらえるということもある。計画を作るのは福祉課の窓口でも協力はできる。何が良いのかは今後考えていきたい。

委員長：計画を作成した方が良い人の中で実際に作成が済んでいる人の割合などが分かれば教えてほしい。

施策担当課：令和3年度では名簿記載者は980人、その中で個人情報の提供同意者が584人、作成済者が156人である。

委員：個人情報の提供同意者が増えていないという実情があるかと思うが、個人情報の提供をしたくない理由について把握はしているか。

施策担当課：理由は尋ねていない。障がいを持っている人の個人情報の提供に抵抗感があるのかもしれない。

委員：情報収集は災害時に対応する際に大事だと考えている。マンションに住んでいて防災の担当をやっていたが、マンションの管理組合などが居住者の情報を収集はするが、個人情報は密封された状態で保管されており、災害時にしか開封できないようになっている。

委員長：計画を立てる、立てないという話とどれだけ多くの人に個人情報を共有するかは別の話である。個人情報を公開せずとも計画を立てるという方法もあるかもしれない。

委員長：では評価をしていきたい。挙手をお願いしたい。…B評価が9名（副委員長は委員長へ託け）

委員長：B評価とする。福祉課の所管シートはまだあるが、いつ評価をするかは事務局と相談して決めていきたいと思う。

3 その他

次回会議日程 10月25日（火）午前9時から 大会議室